

形成外科

1 構成員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	0 人	
病院教授	1 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	1 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	3 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	3 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	0 人	(0 人)
研究生	0 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	8 人	

2 教員の異動状況

深水 秀一（病院教授）（H19.2.1～19.3.31 助教授；19.4.1～23.9.30 准教授；23.10.1～現職）
藤原 雅雄（病院講師）（H19.4.1～24.9.30 助教；24.10.1～現職）
永田 武士（診療助教）（H21.4.1～23.3.31 医員；23.4.1～現職）
水上 高秀（診療助教）（H24.4.1～現職）
瀧口 徹也（診療助教）（H25.9.1～現職）
太田 悠介（医員）（H26.4.1～現職）
金子 愛（医員）（H26.10.1～現職）
山口 智彦（医員）（H26.4.1～現職）

3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 26 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(2 編)
そのインパクトファクターの合計	6.45	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(3) 総説数 (うち邦文のもの)	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数 (うち邦文のもの)	1 編	(1 編)
(5) 症例報告数 (うち邦文のもの)	2 編	(1 編)
そのインパクトファクターの合計	1.19	

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. Fujiwara M, Sawada M, Kasuya A, Matsushita Y, Yamada M, Fukamizu H, Magata Y, Tokura, Sakahara H. Measurement of cutaneous lymphatic flow rates in patients with skin cancer: area extraction method. J Dermatol 41(9):498-504, 2014. [2.35]
2. Takiguchi T, Morizane S, Yamamoto T, Kajita A, Ikeda K, Iwatsuki K. Cathelicidin antimicrobial peptide LL-37 augments interferon-β xpression and antiviral activity induced by double-stranded RNA in keratinocytes. Br J Dermatol. 171(3):492-498, 2014. [4.10]
3. 瀧口徹也, 山崎 修, 牧野麻貴, 佐伯恭昌, 藤井伸治, 濱田和俊, 岩月啓氏 多発転移に伴い血小板減少を合併した頭部血管肉腫の1例 Skin Cancer 29(3):323-327, 2014. [0]
インパクトファクターの小計 [6.45]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

1. 川勝基久, 藤原雅雄, 石河利広. 手指の静脈瘤の検討.日手会誌 31(4): 520-523, 2015. [0]
インパクトファクターの小計 [0]

(2-1) 論文形式のプロシーディングズ

(2-2) レター

(3) 総説

(4) 著書

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 藤原雅雄. ケロイド・肥厚性瘢痕. 今日の治療指針:私はこちら治療している.2015版.1175-6.医学書院.東京.2015年.

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し, 共著者が当該教室に所属していたもの

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 永田武士, 藤原雅雄, 深水秀一. 片側前額皮弁を用いて再建した2例. 形成外科 57(8):913-919,2014.

2. Mizukami T, Fujiwara M, Ishikawa K, Aoyama S, Fukamizu H. Reconstruction for extensive groin hidradenitis suppurativa using a combination of inferior abdominal flap and medial thigh-lift: a case report. *Aesth Plast Surg* 38:745-748, 2014. [1.19]

インパクトファクターの小計 [1.19]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの（学内の共同研究）

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

4 特許等の出願状況

	平成 26 年度
特許取得数（出願中含む）	1 件

5 医学研究費取得状況

（万円未満四捨五入）

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(455 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	1 件	(118 万円)
(6) 奨学寄附金その他（民間より）	1 件	(6 万円)

(1) 文部科学省科学研究費

学術振興会、皮膚悪性腫瘍にこけるセンチネルリンパ節検索パターン解析(JSPS 24591625)

平成 24-26 年度、4,550,000 円

(2) 厚生労働科学研究費

(3) 他政府機関による研究助成

(4) 財団助成金

(5) 受託研究または共同研究

1. 医療用シールの開発、株式会社 共和、平成26-27年、代表者:藤原雅雄、1,188,000円

2. 培養表皮 ジェイス JTEC

6 新学術研究などの大型プロジェクトの代表，総括

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	0 件
(2) シンポジウム発表数	0 件	1 件
(3) 学会座長回数	0 件	0 件

(4) 学会開催回数	0 件	0 件
(5) 学会役員等回数	0 件	12 件
(6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

2) 学会における特別講演・招待講演

3) シンポジウム発表

藤原雅雄、金子愛、瀧口徹也、青山昌平、瀬野尾歩、水上高秀、永田武士、深水秀一. 皮膚悪性腫瘍患者におけるリンパ流速度測定：リンパ節転移予測に関連したリンパ管研究. 第 23 回日本形成外科学会基礎学術集会シンポジウム. 松本, 2014.10.9-10.

4) 座長をした学会名

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

日本形成外科学会評議員、日本褥瘡学会評議員、日本皮膚悪性腫瘍学会評議員

日本創傷外科学会評議員、日本形成外科手術手技学会理事、静岡県形成外科医会会長、

日本熱傷学会東海地方会評議員

東海マイクロサージャリー研究会世話人（以上深水秀一）

日本マイクロサージャリー学会評議員、中部形成外科学会評議員、

静岡手外科マイクロサージャリー研究会世話人、静岡形成外科医会世話人（以上藤原雅雄）

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数（レフリー数は除く）	0 件	0 件

(1) 国内の英文雑誌等の編集

(2) 外国の学術雑誌の編集

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

Biologics: Targets and Therapy(米国)、Journal of Dermatology（日本）、Clinical, Cosmetic and Investigational Dermatology（米国）3回、Journal of the European Academy of Dermatology and Venereology（スイス）、Medical Devices: Evidence and Research（英国）、Burns（米国）、日本形成外科学会誌 6 回（以上深水）

9 共同研究の実施状況

	平成 26 年度
(1) 国際共同研究	0 件
(2) 国内共同研究	0 件
(3) 学内共同研究	0 件

10 産学共同研究

	平成 26 年度
産学共同研究	1 件

1. 医療用シールの開発、株式会社 共和、平成26-27年、代表者（藤原雅雄）、1,188,000円

11 受賞

12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 手指の創傷に対する持続陰圧洗浄装置の開発
JST新技術説明会、東京都市ヶ谷、2014.11/20. 研究成果発表
独立行政法人科学技術振興機構、平成25年度第1回「研究成果最適展開支援プログラム (AS251Z01440P)、代表者：藤原雅雄の成果」
【概要】手指の創傷の頻度が高いにもかかわらず、複雑な形状を有し密閉性を得にくい手指に利用可能な陰圧閉鎖療法装置を開発した。
2. 皮膚悪性腫瘍におけるインドシアニングリーン (Indocyanine green) と R I を併用したセンチネルリンパ節 (sentinel lymph nodes)の同定と評価
【概要】 Fujiwara M, Sawada M, Kasuya A, Matsushita Y, Yamada M, Fukamizu H, Magata Y, Tokura Y, Sakahara H. Measurement of cutaneous lymphatic flow rates in patients with skin cancer: area extraction method. J Dermatol. 41(6):498-504. 2014 にて発表
3. マイクロニードル機器の局所麻酔およびステロイド局注への応用
【概要】 Ishikawa K, Fukamizu H, Takiguchi T, Ohta Y, Tokura Y. Application of a three-microneedle device for the delivery of local anesthetics. Patient Preference and Adherence 9:585-588, 2015. にて発表

13 この期間中の特筆すべき業績, 新技術の開発

1. リンパ流速度に基づいた皮膚悪性腫瘍のリンパ節転移診断法の開発

14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

15 新聞, 雑誌等による報道